

肝臓週間を中心とした普及啓発活動の実施状況について

令和5年9月13日

広島県健康福祉局薬務課

1 概要

B型・C型肝炎ウイルス持続感染者（以下「キャリア」という。）は自覚症状がないことが多く、本人が気付かないうちに慢性肝炎から肝硬変・肝がんに進行することが問題となっている。7月28日の日本肝炎デーにあわせてキャンペーンを実施することで、肝炎ウイルス検査の受検を促進し、早期発見・早期治療の必要性、感染の予防及び肝炎患者に対する差別や偏見の解消等、肝炎に関する正しい知識を普及啓発した。

2 事業内容

(1) マツダスタジアムでの啓発活動【継続】

ア 実施日

令和5年5月25日（木）15時00分～18時00分

イ 実施内容

広島東洋カープ観戦者のうち、肝炎クイズを回答した者に対して、ウェットティッシュ等の啓発資材を配布した。

ウ 実施結果

参加者：143名



エ 昨年度との比較

昨年度は6月28日にマツダスタジアム来場者へ二次元バーコード付き肝炎クイズのチラシを1500部配布した。しかし、6月28日の回答者は2名、7月1日の回答者は1名とほとんど回答いただけない状況だったため、今年度は、クイズの回答者へ啓発資材を配布した。このことにより、143名と多くの方に回答いただき、知識の普及啓発に繋がった。

(2) 福山駅での啓発活動【新規】

ア 実施日

令和5年7月27日(木) 17時30分～18時30分

イ 実施内容

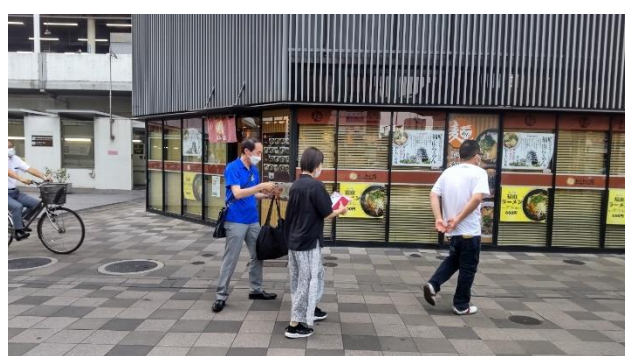
ウェットティッシュ及びチラシ等の啓発資材を配布

ウ 参加者

17名(広島大学7名、全国B型肝炎訴訟広島原告団3名、福山市民病院1名、尾道市御調保健福祉センター1名、アッヴィ合同会社2名、薬務課3名)

エ 実施結果

啓発資材を300部配布



(3) 広島駅での啓発活動【継続】

ア 実施日

令和5年7月29日(土) 10時00分～11時00分

イ 実施内容

ウェットティッシュ及びチラシ等の啓発資材を配布

ウ 参加者

28名(広島大学9名、全国B型肝炎訴訟広島原告団3名、広島大学病院3名、広島市民病院2名、中電病院2名、土谷総合病院2名、アッヴィ合同会社2名、薬務課5名)

エ 実施結果

啓発資材を600部配布



(4) 研修会の開催

ア 東部地区対象の職域における肝炎対策セミナー【新規】

(ア) 実施日

令和5年7月27日(木) 14時30分～16時30分

(イ) 場所

福山市民病院 講堂

(ウ) 対象者

産業医、医療関係者(医師、看護師等)、産業保健スタッフ、人事・労務担当者

(エ) 目的

職域をメインターゲットとし、肝炎ウイルスについて正しい知識を普及し、肝炎ウイルス検査の受検を促進する。

(オ) 参加者

対面 36名 Web 6名

イ 西部地区対象の職域における肝炎対策セミナー【継続】

(ア) 実施日

令和5年7月29日(土) 14時00分～16時00分

(イ) 場所

広島県健康福祉センター 大研修室

(ウ) 対象者

産業医、医療関係者(医師、看護師等)、産業保健スタッフ、人事・労務担当者

(エ) 目的

職域をメインターゲットとし、肝炎ウイルスについて正しい知識を普及し、肝炎ウイルス検査の受検を促進する。

(オ) 参加者

対面 105名



(5) 市町での取り組み【新規】

ア 実施内容

肝炎対策の推進に関する基本的な指針に、「肝炎ウイルス検査を受けたことがない人に対する効果的な広報に取り組むこと」が追加されたことから、普及啓発活動をより一層推進するために、広報例を作成し、令和5年5月1日付けで各市町肝炎対策担当課長宛に肝炎デーの自治体普及啓発活動について通知を行った。

イ 実施結果

令和5年8月末時点で次のとおり連絡があった。(資料3-2)

各自治体の取組		
広報誌への掲載	3件	三次市、世羅町、府中町
市町ホームページへの掲載	1件	三原市
ポスター等掲示	2件	広島市、呉市

(6) 特任肝疾患コーディネーターの取り組み【継続】

ア 実施内容

特任肝疾患コーディネーターが所属する各施設でそれぞれ肝臓週間に合わせて、啓発活動を行った。

イ 実施結果

肝炎ウイルス検査への受診勧奨や正しい知識を普及するための肝炎クイズの実施などを実施。(左：土谷総合病院、右：広島西医療センター)



(6) B型肝炎訴訟広島原告団と連携した取り組み【新規】

ア 実施内容

B型肝炎訴訟広島原告団と交流がある特別養護老人ホーム2施設へ県啓発資材を発送し、ひろしま肝疾患コーディネーター養成講座の案内を実施した。また、広島市にある認定こども園でも啓発資材を配布頂いた。

(幼稚園での啓発資材を配布している様子)



イ 実施結果

特別養護老人ホーム 2 施設：啓発資材 70 セットずつ

認定こども園：啓発資材 80 セット

3 今後の取り組みについて

目的である肝炎ウイルス検査の受検促進、正しい知識の普及に努めることが概ねできた。

良い点としては、マツダスタジアムでの肝炎クイズは、双方向にコミュニケーションを取る参加型にしたため、その場で肝炎ウイルスに関する知識を伝えることができた。

課題としては、肝炎ウイルス検査の受検勧奨では、肝炎ウイルス検査にかかる費用が住ましいの市町村や年齢によって異なるため、街頭啓発時にそれらを伝えることが難しく、「無料で肝炎ウイルス検査が出来ると聞いたのに」といった問い合わせが数件あった。

しかし、街頭啓発は、肝炎ウイルス対策関係者と連携する機会として重要であり、今後も地道に普及啓発活動を実施していく。また、今年度の取り組みを広島県ホームページへ公開し、取り組みの成果を示す。

今後は、健康増進・食育に関する分野で県と包括連携協定を締結する企業に対して、肝炎対策に関する提案を行うとともに、すでに連携項目として加わっている企業と連携を図り、肝臓週間を中心とした啓発活動実施を目指し、より多くの人への啓発活動の実施を目指す。